

2024年度 1級実技（面接）試験 問題把握力強化講座

1級合格を目指す方のために合格に向け、事例指導者視点の見立て目標設定までの流れを強化します						
東京	2024年9月22日(日)	9:30~16:30	会場：全労連会館 御茶ノ水	受講（税込）	2日間受講	会員：40,000円 一般：44,000円
	2024年9月23日(月祝)	9:30~16:30			1日スポット受講	会員：23,000円 一般：25,000円
内容	<p>本講座は1級実技（面接）試験において、難関とされる「問題把握」をメインテーマにしたものです。</p> <p>1級実技試験の問題把握は、事例相談者の訴える問題（事例相談者視点の問題）と事例相談者は気づいていない面談技法上のクセや偏り（指導者視点の問題）という2つの問題があり、この2つをロールプレイと口頭試問で試験官に伝えることによって、「所要点」をクリアします。</p> <p>このうち、「事例相談者視点の問題」は、事例相談者の話を傾聴することで、話してくれますので、それを確実に捉えると把握できます。</p> <p>これに対し、「事例指導者視点の問題」は、事例相談者が気づいていない面談のやり方のクセ（傾向）ですので、事例指導者が問題を見立て、それに気づいてもらうための働くかけをししないと、明確にはなりません。</p> <p>「指導者視点の問題」を的確に把握するためには、「気づきを促す」必要があります。</p> <p>そのためには、まず、事例相談者の話を傾聴することで関係構築を深め、そのうえで、目の前の事例相談者がどのような技法上の問題（課題）を抱えているかの「見立て」、それに気づいてもらうための「質問技法」が不可欠です。（クセとは厚労省の表現です。）</p> <p>過去の本試験ケースを分析し、まずは、事例相談者の心情や、認めてほしい、承認してほしいところ、関係を深めるポイントを浮き彫りにします。</p> <p>その後、事例相談者のタイプを見極めて、どのような問題があるかを「見立て」、それに気づいてもらうためどのように質問技法（オープン・クローズ等）を用いていくかを実践していきます。</p> <p>午前中で、事例相談者のタイプと見立ての方法を理解し、午後はそれを前提にロールプレイを行います。</p> <p>30分のロールプレイにおいて、見立て、事例指導者視点の問題把握が見立てられるようになるためにどうすればよいかを考え実践します。</p> <p>1回のロープレに対し、必ず講師からフィードバックを差し上げますので、9月中に問題把握のポイントを明確にしてください。</p>					

受講することで、理解し身につく内容	
事例指導者視点の問題が把握できる。	講座では、代表的なCC視点の問題には何があるかを理解し、面談においてそれが見立てられるようになります。
事例相談に気づきを与えるような質問が考えられるようになり、目標に合意してもらえるようになる。	この事例相談者には〇〇が不足していると見立てられれば、気づきの質問がたくさん考えられ、合意を得ることができるようになります。